



1057.

ワシタカ類に寄生するハジラミの一未記録種

中 川 宏

資 源 科 学 研 究 所

**A new Record of *Degeeriella rufa* from Japanese
Avian Host and Redescription
of the Lice. (Mallophaga)
By NAKAGAWA, Hiroshi**

鳥獸集報 第 17 卷 第 1 号 別刷

Reprinted from Japan Wildlife Bulletin, Tokyo,

Vol. 17, No. 1

May, 1959



NAKAGAWA, Hiroshi: A new Record of *Degeeriella rufa* from Japanese Avian Host and Redescription of the Lice. (Mallophaga).

ワシタカ類に寄生するハジラミの一新記録種*

中 川 宏

〔資源科学研究所
東京都新宿区百人町4〕

Degeeriella 属はワシタカ科を宿主とする長角ハジラミ群 Philopteridae の一員で、最近著者 (1957) が *angusta=fulva* (ケアソノスリ), *giebeli* (ノスリ) & *vagens* (オオタカ) の三種に基づいて記録したものである。

従来文献によると、*Degeeriella* と報告されたハジラミは旧領土を含む日本から三種を数えるが、そのうち *D. sinensis* SUGIMOTO, 1929 の所属については CLAY (1938) が記載から判断して *Lagopoecus* であることを指摘し、加えて EMERSON (1957) はその再記載を行い、疑問をもたれた宿主は杉木の示した如く、ニワトリである事実を確認した。また旧昆虫図鑑 (1932) において内田博士は *Nirmus ovatus*, UCHIDA, 1917 を *Degeeriella* にうつし、あわせてトウネン寄生のハジラミを *D. incoensis* (KELLOGG & CHAPMAN) の名のもとに収録された。前者の所属変更は *Nirmus* NITZSCH, 1818 が HERMANN, 1804 に先占されたため行なわれたものであるが、真の所属は CLAY (前出) の述べた如く *Lagopoecus* である。後者の *incoensis* はダイゼンからえた 1 個体の雌に基づいて記載されたもので、これは明らかに straggler であり、KELLOGG らの与えた宿主は真の宿主ではない。現在この *incoensis* の所属は *Luniceps* とみられ、又その真の宿主は最小形の *Calidris*, おそらくオジロトウネンであろうと思われる。図鑑のいわゆる「トウネンハジラミ」には雌の記載、図が与えられているが、著者がトウネンについて調査した限りでは、同宿主にはいわゆる Nirmoid 様のハジラミ、即ち古典的な意味における *Degeeriella* 所属のハジラミは *Caraduceps* と *Luniceps* の 2 属が寄生しており、そのうち内田博士の記載は *Luniceps* のそれに一致する。トウネン寄生の *Luniceps* sp. の同定は目下検査中で、将来種名の変更もしくは新亜種の記載が行われることも考えられる。

上述の如く、戦前の記録は真の *Degeeriella* のそれではなく、著者 (1957) の行つた報告が唯一の記録であるが、その後チョウゲンボウより日本未記録種である *D. rufa* をえたので、その記載、図を附してここに報告する次第である。

* 資源科学研究所業績第 943 号

なお、*Degeeriella* 複合体では、第Ⅰ脊板と第Ⅱ脊板は融合し、みかけ上の第Ⅰ節となるが、記載の中では第Ⅱ節と表示し、人降の節はこれを基準として算える。

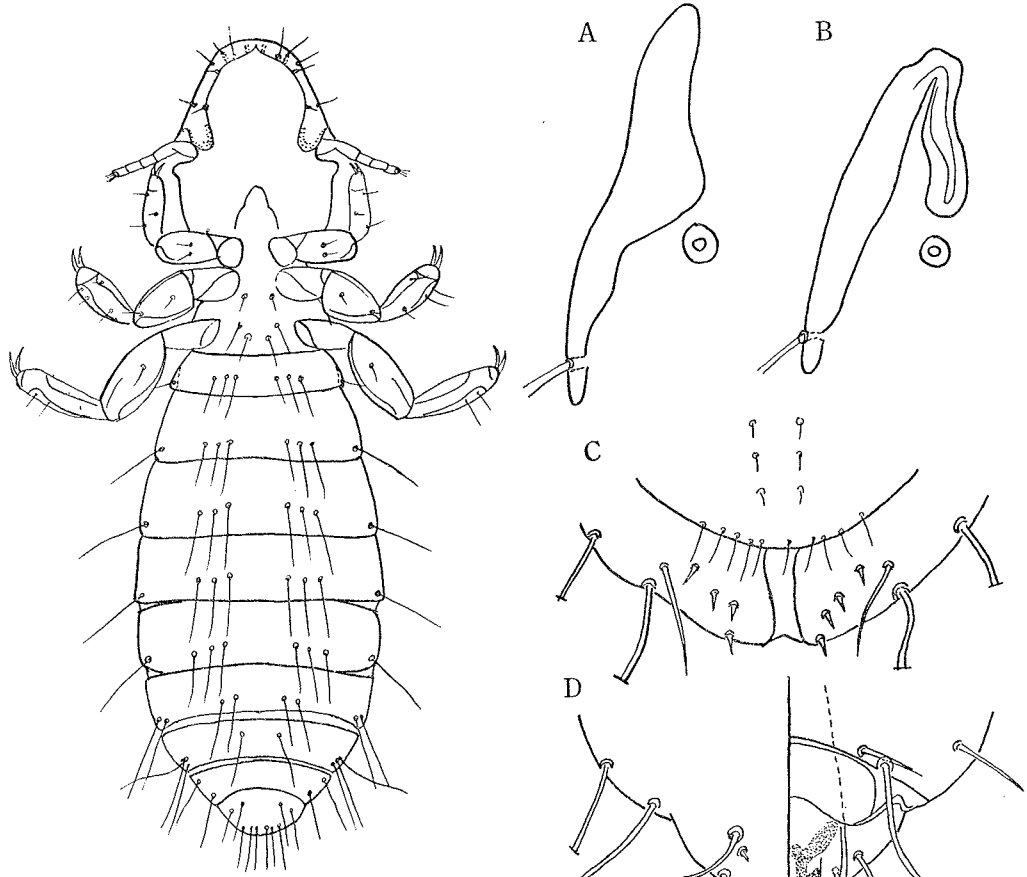


図 1. *Degeeriella rufa* (B.) ♂, ventral.
 A. *D. rufa* ♀ の側板
 B. *D. vagans* ♀ の側板
 C. *D. rufa* ♀ の末端節腹面
 D. *D. rufa* ♂ の末端節

図 2.

Degeeriella rufa (BURMEISTER), 1838. Type host: *Falco tinnunculus* LINN.

チョウゲンボウ

Nirmus rufus BURMEISTER, Handb., Ent., 2: 430. 1838.

記 載

雄 (Text-figs. 1; 2, B; 3, C): 頭部の前縁はわずかに出出, 脊面周辺部隆起は中央部でわずかに刻入する。胸部, 腹部の概形は図 1 の如く, 本属の一般的形態を示す。胸腹板の形状および剛毛の配列 (3 対) は図 1 に示された通りで, 特に変った点はない。Ⅱ—Ⅷ 脊板は区分されない単一のキチン板よりなるが, 唯第Ⅱ脊面は 2 枚の板に区分される。変形節 (Ⅸ—Ⅹ) 脊板は強く変曲し, 中央部においてその巾はせばまる。第Ⅲ—Ⅵ 節の側部硬化部の頭部はに

る

ふい弧をかいて終り、内方にまがる附属物をかく。後部気門剛毛は第 III—VIII 節に点在し、III—V 節では更に感覚孔をとまなう (後述)。

腹部剛毛式は背面毛 (tergocentral setae), 側毛 (pleural setae) および腹面毛 (sternocentral setae) の三群よりなり、その配列は次の如くである (片側のみを示す)。背面毛: II, 3本, 時に2本, 更に1本が前方に位置する; III—V, 4本; VI—VIII, 3本, 時として4本; X, 1又は2本。側毛: II—III, 0; IV—V, 1本, 末端節の剛毛配列は図にみられる通りで、多くの個体ではその配列は右左対称に近い。なお本種では XI 節が痕跡的に示され、きわめて特徴的である。

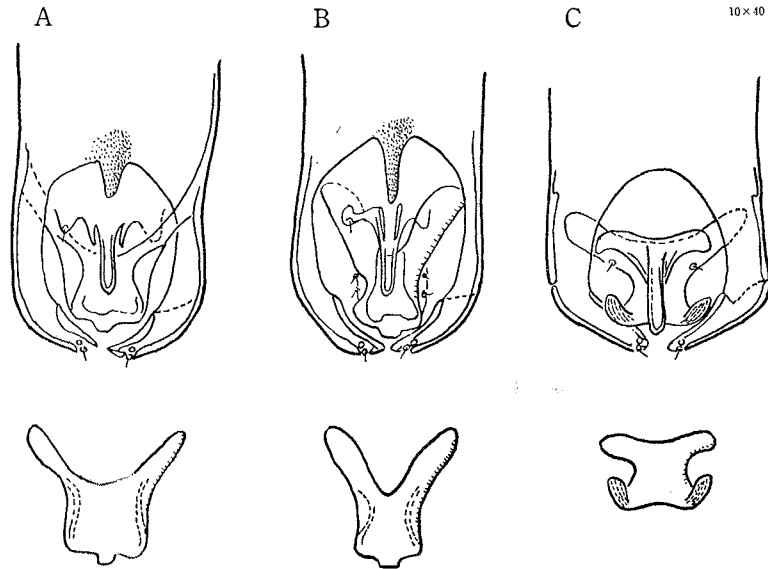


図3. 雄生殖器の比較

A. *D. vagans* (オオタカ). B. *D. giebeli* (ノスリ).
C. *D. rufa* (チョウゲンボウ).

生殖器。その概形は図3, Cに示す通りで、中央突起 (penial central sclerite) は消失し、penial arm にそなわる剛毛は不分明である。又、endomer dorsal arm の形状は若干の変異があるが、概形は図3に示す通りで、後縁両側は扁平な板とならず、葉状の附属物としていくらか上側方にそり、加えて前縁はゆるやかな凹状となる。射入器は比較的短い。

雌。頭部、胸部の形状は雄に準ずる。側部硬化部の形状は雄と同様。生殖器の形状は図2—Cの通りであり、特に述べることはない。

論 議

本種はワシタカ科に由来する *Degeeriella* の多くの記載種に対し近似性をもたず、雄において第 XI 節が痕跡としてみとめられる事実、生殖器において中央突起および II—III 節側毛をかくなど顕著な差がみられる。又側板の形状は両性とも共通しており、種を知る特徴として便利である。

βで
形状
は区
X)
に

一般的に *Buteo* 間にみられる *Degeeriella* はおそらく、若干の種もしくはその亜種からなると思われるのに反し、*Falco* 間にみられる *Degeeriella* は単一の種からなり、この事実は *Falco* の分化が *Buteo* の分化よりも新しい時代に行なわれた事実を反映するものであろう。本種は頭部の外部骨格、雄変形節（生殖器）等からみると、ハチクマ亜科 *Perninae* に含まれる *Elanus*, *Chelictimia* に寄生する種類に関連しており、宿主分布からみて極めて興味深い。

なお、今回の記録と直接関係ないことであるが、*Degeeriella* 属の腹部Ⅲ—Ⅴ節では気門と結びついて感覚孔がみられる。著者は先に蚊蚋剛毛式の一連の研究の中で、蚊は幼虫より蛹に至るまで腹部Ⅲ—Ⅴ節に感覚孔が存在する事実にふれたが、蚊から遠くはなれた昆虫群で同様の事実がみられることはここにかきとめておく価値があろう。

供試標本。4♂♂, 4♀♀ & 3LL。宿主, *Falco tinnunculus interstinctus* HORSFIELD
 チョウゲンボウ, 青森県, 1958年, 中川 宏 採集。

謝 辞

著者にアメリカ産の材料を送られた Dr. EMERSON 及び鞭達をたまわつた浅沼靖博士には深く謝意を表したい。加えて又、本研究は著者に与えられた農林省鳥獣捕獲許可証(1957—1958)のもとに行われたものであり、林野庁当局の方々に深く謝意を表す。研究費の一部は文部省科学研究費におうものであることを附記する。

文 献

- CLAY, TH. (1938): Proc. Zool. Soc. Lond. (B), 108.
 EMERSON, K. C. (1957): J. Kansas Ent. Soc. 30 (1), p. 9—10.
 中川 宏 (1957): 新昆虫, 10 (12), p. 41.
 内田清之助 (1932): 日本昆虫図鑑, p. 1899—1990.
 杉本正篤 (1929): 台湾総督府中央研究所農業部彙報, 78, p. 11—15.